

出題のねらい

㊦は、水村美苗の長編小説『本格小説』から出題しました。謎の若者が初めて、内に秘めた強烈な不満がたまっていたことを、言葉ではなく激しい行動で示す場面です。ですから、彼を観察していた「私」は、それまで彼を誤解していたことに気が付いて、とても驚き、後悔する。その間の二人の心理状態が重要で、それを、無口な若者の行動や、「私」の語りの変化などから、正確に読み取ることが要求されます。「私」の気持ちには、最初は優越感から生じた優しさがあるのですが、その優越感は相手をさげすむ感情になり、優しさは憎しみになり、しかし、若者の過激な反応によって、それが一気にしぼんでしまうわけです。

㊧は、江戸時代初期に僧侶安楽庵策伝が著した『醒睡笑』から出題しました。江戸時代の小説は、余りなじみがないでしょうが、高校で習得する古典の知識で十分解答可能な設問ばかりです。古文の常識というべき基本語彙についての設問も多く含んでいます。江戸時代独自の語彙については、注釈を載せました。古文としてもかなり短い文章ですので、繰り返し読むことができると思います。現代人からすると少々変わり者の主人公の言動に注意してください。『醒睡笑』は笑話ですから、どこが面白さの眼目なのかということも質問してみました。これは受験者の文学的なセンスも問うています。

㊦

【解答】(50点)

問一	a 正真 b 照明 c 大胆 d 募 e 混然 (各2点×5)
問二	踊れないんじゃないんで、踊りたくないのでしょう、 (4点)
問三	父の権威を借りて強制している (4点)
問四	若い男が自分と踊りたくない筈はないという自惚れや、淋しく孤立している東太郎が哀れで、世の中との繋がりを回復させてあげたい、と思う、若い娘らしい優しさ。 (8点)
問五	1 ウ 2 ア (各4点×2)
問六	イ (4点)
問七	私のサディズム (4点)
問八	ウ (4点)
問九	明暗 (4点)

【解説】

問一 漢字の書き取り問題です。例年、最も受験生の合否を左右する、と言っても過言ではないのが漢字です。必ず常用漢字の中から、珍しくない用語が

選ばれます。ですから、日頃から漢字の練習をしていれば、合格の確率も上がるでしょう。8割正解を目標にしてみてください。今回は「募」が難しかったようです。「力」の部分で「刀」にしてしまう人が多かったです。

問二 「僕は踊れない」と東太郎は答えます。それが嘘であることを「私」は見抜いています。なぜでしょう。彼が踊れることをすでに知っているからです。それに気づけば正解の見当がつくでしょう。

問三 これはそんなに難しくなかった、と思います。ただ、問題を飛ばし読みすると、わからないかもしれません。「次の文章は水村美苗の…」という最初の前置きのところに、「私」の父の世話になって仕事を得ている」とありますね。ここから考えてください。

問四 八十字！たいへんな字数です。けれど、こういう問題は実は難問ではありません。「本文中の言葉を用いて」とありますね。ほとんど文中から抜き出して、意味が通るようにつなげれば、答えることのできる問題なのです。ただし、何箇所を抜き出せばいいのか、それが問題です。正解は四箇所。簡単に言うと、「自惚れ」「哀れ」「回復」「優しさ」です。一箇所2点で採点しましたから、四箇所全部を見つけれなくても、三箇所合っていれば6点を取れます。それを目標にしてみてください。

問五 空欄補充問題です。難しくないはずですが、そのぶん確実性が要求される問題ですから、全問正解を目指してください。

問六 これも難しくないはずですが。実際、問五と問六はとても正答率の高い問題でした。かえって、考えすぎてしまった人が間違えるのかもしれませんが。本学の選択肢問題は、素直に考えて素直に答えれば正解になるのが普通です。

問七 これは難問でした。多かった間違いは「拒絶された怒り」です。しかし、これでは不十分ですね。この怒りは「邪悪なものに瞬間のうちに転じた」とあります。そこまで含めた感情が描かれていることを読み取る必要があります。

問八 また選択肢問題です。問六よりは少し難しいですが、難問というわけではありません。要点を問題文から確認すると、「何かを堪えているのが硬くこわばった身体全体から私を罰するように伝わって来る」とあります。これが「私」には強い衝撃を与えまし

た。ですから、ダンスが上手かどうかや、失礼を謝罪するかどうか、という問題ではないことに気づけば、正解がわかるでしょう。

問九 文学史の問題です。例年は作家と作者の名前さえ知っていれば解けるのですが、今年は難問でした。本学では珍しいタイプの問題です。けれど、夏目漱石は国民的な文豪ですから、彼の最後の未完の小説は知っておいてほしいな、という気持ちで出題しました。



【現代語訳】

異常なほど、何事につけても縁起をかつぐ者がいて、与三郎という使用人に、大晦日の晩に言い教えたことには、「今晚は普段より早く家に帰ってやすみ、明日（元旦）は早々起きてやって来て、家の門の戸を叩け。家の中から、私が『誰だ』と尋ねるとき、『福の神でございます』と答えよ。すぐさま戸を開けて呼び入れよう」と、念を入れて言い含めた後、亭主は気にして、鶏の鳴くのと同じくらい早く起きて、門のところで待っていた。

予定通り、戸を叩く音がした。亭主が「誰か、誰か」と問う。すると「いや、与三郎です」と答える。亭主ははなはだ不愉快であるが、門の戸を開けてからは、あちこちに灯を点け、正月の若水を汲み、雑煮を据えたけれども、亭主の顔色は機嫌の悪いままで、ちっとも言葉をしゃべらない。使用人は不審に思い、よくよく考えてみて、昨日の晩に亭主が教えた福の神を忘れたことを、ようやくお屠蘇を飲む頃に思い出し、びっくり仰天して、食膳を片付け、座敷を立てて帰りざまに、「さて、わしは福の神である。これにておいとま申し上げる（帰らせていただく）」と言った。

【解 答】(50点)

問一	エ	(4点)
問二	つごもり	(4点)
問三	普段より早く	(4点)
問四	誰	(4点)
問五	⑤ エ ⑥ ア	(各4点×2)
問六	福の神にて候	(4点)
問七	(i) すゆれ (ii) 已然(形)	(各4点×2)
問八	ちっとも言葉をしゃべらない	(4点)
問九	せっかく訪問してくれた福の神が、すぐに帰ってしまったので。	(6点)
問十	オ	(4点)

【解 説】

問一 古文ではよく出る語彙の意味を問う設問です。重要古文単語として知っていて欲しい語ですが、すぐ下の「いはふ」に「縁起をかつぐ」という注を付けていますから、前後の文脈の中で選択することは可能でしょう。余りにも縁起をかつぎすぎる人、この後の文章を理解する上で、とても重要です。

問二 普段生活する上で、使用することはなくとも知識としては持っていて欲しい語です。明治の女流作家樋口一葉にも、「大つごもり」の傑作があります。音読しただけの誤答が多く見られました。

問三 重要古文単語というべき「とく」＝「早く」の知識の有無を問うのが、この設問の眼目です。「つねより」を正解例では「普段より」と訳しましたが、「いつもより」でももちろん結構です。

問四 「だれ」を「た」と言うことは古文の常識と言えますが、名前を名乗らずに戸を叩く者に声をかけるとすれば、「誰だ」となるのは推測できるでしょう。誤答としては「多」「他」「田」「足」等たくさん出ました。

問五 ⑤⑥共に古文の語彙として、しばしば出題されるものです。現代でも使われますが、微妙に意味が異なっています。この種の語彙は、今は使われていない語彙以上に、入試では出題されることが多いので、一度は辞書を引いておくべきです。

問六 亭主の言葉を丁寧に読んでいけば、ごく簡単にわかる設問です。正解のすぐ後に「とこたへよ」とあるのは、ダメ押しのヒントになるでしょう。「候とこたへよ」という解答がかなり目立ちましたが、なぜ選ばれたのかわかりません。

問七 古文の文法問題としては、オーソドックスなものですが出来はよろしくありませんでした。(i)では正解よりも「すえ」が多く、(ii)では「已」ではなく「己」や「巳」としたものが目立ちました。(数ミリの違いなのですが、ここは厳しく採点しました。)本学の一般入試には古文を出題する旨、入試ガイド等に明記してあります。動詞の活用は、古文の授業のごく最初の方で、丁寧に習っているはずです。復習しましょう。

問八 「さらに」の現代語訳が眼目です。正解例の「ちっとも」以外にも「全然」「まるっきり」等々いろいろなバリエーションがありました。皆正解です。現代ではこのような場合に「さらに」は使いませんが、他の現代語訳に比べてよくできていました。

問九 この笑話の最もおかしいところを尋ね、受験者の文学的センスをも問うものです。簡潔に書くのは結構難しかったようで、その意味では表現力も求めることになりました。亭主は、正月に是非、我が家に「福の神」に来て欲しかったのです。そこで、使用人の与三郎に福の神に成りすましてもらおう、と考えました。ところが元日の朝、与三郎はそのことを忘れてしまい、福の神ではなく、与三郎が来ましたが、と言ってしまいますが、帰り際になって思い出します。そこで、あらためて「自分は福の神である」

と名乗りました。でも、帰り際ですから、「さようなら(おいとま申し参らする)」と言ってしまいます。せっかく来た福の神が帰ってしまうことになりました。ですから、「福の神」が出て来なくては得点できません。

問十 文学史の問題です。エだけが近代の文学者です。ほかの選択肢はすべて江戸時代を代表する人たちですので、ぜひ正解してほしい問題です。蛇足ながら、「曲亭馬琴」と「滝沢馬琴」は同一人物です。